

道連ニュース

2019年10月号 No.159

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

全労済北海道会館内

TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

コープ
さっぽろ

第12回 食べるたいせつフェスティバル2019 in 札幌

8月24日(土)札幌東区コミュニティドーム(つどむ)にて、第12回「食べるたいせつフェスティバル」を開催しました。また、第7回高校生チャレンジグルメコンテスト同時開催となりました。天候にも恵まれ、7,830人が来場しました。会場内は117団体に出品いただき、食を中心とした参加型体験プログラムを中心に88企画を開催しました。毎年、教育委員会やキッザニア東京、生協会等の代表で体験ブースの審査を行い、レベルアップを図っています。また、今年は内部ブースの拡大と充実を図るため、内部の体験プログラムコンテストを始めて開催しました。コープさっぽろの普段の仕事を楽しく、分かりやすく伝えるとともに、コープならではの食育を展開しました。また、今年初めて事前登録&優先入場(15分前)を行い、ネット誘導



を活発化させました。新聞広告を中止した関係もあり、ベビーカーで入場するような若い世代に広がり、授乳室&おむつ交換所が好評でした。

ご協力いただいた団体様には大変感謝しております(来場者7,830人、支援者962人)。

こども食堂北海道ネットワーク第10回学習交流会報告

事務局 松本



9月9日に開催された第10回交流会は道内各地(函館・旭川・帯広・釧路+飛び入りで北見)の運営団体43名と行政関連、支援団体17団体、他31名の過去最高の参加により「食物アレルギー」について学び且つ交流を深める時間となりました。発症原因、発症予防、緊急時対応等々、「アトピっ子・地球の子ネットワーク事務局長」赤城智美さんのお話に参加者一同新しい気づきを体験、共有する時間となりました。

また、お話の中で現在様々なアレルギー対応食品が開発されている事も紹介され、運営者が気配り、留意



(赤城さん)



するポイントについても「実習」含めて大いに学びありました。

第2部交流会では地域毎に運営者の現実や課題を共有し合い、それぞれの課題について学び共有し、更なる支援の輪を広げる場としても今後の交流会への期待が語られました。

『震災対応を学ぶ』

全岐阜県生協連拡大理事会研修

9月12日(木)・13日全岐阜県生協連理事会の皆様、大坪光樹会長をはじめ11名が北海道胆振東部地震における生協の事業対応を学ぶ研修として、北海道にお越しになりました。

9月12日(木)は、「むかわ町復興支援ネットワーク」での復興支援を行っている一般社団法人 Wellbe Design 理事長の篠原辰二様に同行いただき、被災地及び被災者の状況報告を受けると共に被災地の視察を行いました。まず、むかわ町での被災状況と「足湯隊」や「Omoidori Project」(倒壊世帯の思い出の品や重要文書のリペア)の報告をお聞きしたあと、被害のひどかった厚真町吉野地区一円、仮設・福祉仮設の視察をしました。

13日(金)は、こくみん共済 coop 北海道会館にて、コープさっぽろの震災対応について、横澤組織本部長及び栗栖宅配運営部長より、被災発生時から事業継続と現場での職員の奮闘についてご報告があり、その後、

質疑応答による交流がなされました。最後に、北海道生協連の取り組み(主に子ども食堂支援、協同組合連携)について報告させていただきました。全岐阜県生協連佐藤圭三専務理事より「昨年の地震から一年が経ち、その間に新たな自然災害も起きていることから、つい忘れがちになってしまいますが、むかわ町や厚真町など被災地の現状を生で見、復興にはまだ相当の時間が必要であり、被災された方の心のケアなど難しい課題に向き合い、多くの方が奮闘されていることを知ることができました。また、今日はコープさっぽろを始めとして、生協の皆さまが震災発生直後から、自分の果たすべきことを自ら考え判断し動いた行動力、そしてその背景には、地域の役に立つことが生協の使命であるという組織の理念が全職員に浸透されていることを実感しました。短い時間でしたが多くのことを学ばせていただいた研修となりました。」とお礼の言葉をいただきました。

兵庫県、協同組合連携視察報告！

～改めて、コープこうべの設立100年の歴史的重みを感じました～

8月22日・23日の両日、協同組合ネット北海道準備会の活動の一環として、事務局団体三者で兵庫県における協同組合連携について視察してきましたので報告します。

視察に参加したのは、JA中央会より高橋室長、北海道労金より榎田室長、道連からは川原事務局長が参加しました。

印象的だったのは地域諸団体と連携した、移動店舗の取り組みです。概要は①2011年からスタート②乗り込み型2トン車③月～土の週6日④利用金額の10%(最大150円)を利用者負担⑤2019年度は9店舗10台運行、531拠点で12万7千人/年利用⑥利用高は443万円、利用人数2,410人、平均利用高8.4万円/一台⑦1ヶ所の営業時間は20分から60分、利用人数による⑧問題点 損益分岐店10万円には届いていない、運行労働者の長時間労働の常態化など

感じた事は、①町内会と社協と行政の協力、JAとの連携②ご近所の人々が同じ曜日の同じ時間に集う井

戸端会議所(居場所づくり)民生委員やケースワーカーも参加し、情報収集と情報伝達の「場」③「連携協定書」の締結、自治会・行政・生協によるなどと、大変地域住民と地域の諸団体からは、感謝され「生協さん、生協さん」と親しみをこめて呼ばれて、コープこうべさんが地域社会にとって無くてはならない存在になっていることです。

地域の諸団体との連携はなかなか難しいもので、コープこうべさんがここまで地域から信頼されるには、長い蓄積があったことを学びました。生協の責任者との懇談では、社会貢献としてはいい事例となっているが課題は損益分岐点が高く赤字で、全県展開が出来ない状況とのこと。一方、コープさっぽろは事業として確立し全道で約100台近くの「おまかせ便カケル」が走っています。地域の諸団体との連携による貢献など、北海道の課題が見えてきました。今後の協同組合連携活動や地域の居場所作りの活動に生かしていきます。